

## 第53回 奈良県河川整備委員会 議事概要

1 日 時：平成21年11月30日 13:00～15:30

2 場 所：奈良県中小企業会館 4階 大会議室

3 出席者：委 員 7名：朝廣佳子、池淵周一、伊藤忠通、岡田伸子、谷幸三、中川一、前迫ゆり  
(五十音順、敬称略)

事務局 4名：奈良県 大淀河川課長 ほか

### 4 議事要旨

- (1) 第52回奈良県河川整備委員会議事概要の確認
- (2) 第52回奈良県河川整備委員会補足
- (3) 淀川水系(奈良県域)河川整備計画 素案(修正)について
- (4) 今後の進め方について
- (5) その他

### 5 議事内容(主な意見)

#### 5.1 第52回奈良県河川整備委員会補足について

- ・河川整備計画ができあがってきたが、観測データという客観的事実を表すものが働かず、推定による検討の場面が多かったため、もう少し計るという姿勢を重視してほしい。
- ・流量計を設置するというような費用がかかるものではなくて、雨が降っている時に、僅かの費用さえ出せば浮子を流して観測してくれるコンサルタントがある。西山地点でもレーティングカーブを作るということをすれば流量の把握はできたはずである。ここで検証が終わったというわけではないので、このレーティングカーブが本当に正しいのかという検証も含めて、人海戦術でもよいから流量を計るような努力はしてほしい。

#### 5.2 淀川水系(奈良県域)河川整備計画 素案(修正)について

- ・対比表P.2-3に「外来種も多く確認しているが、その中でも在来種を駆逐する」というところがある。動物の場合は「駆逐する」を使うのが適当であるが、植物の場合は「在来種の衰退につながる」を使う方がよいので修正してほしい。
- ・対比表P.2-3の宇陀川の写真について、外来種であるアメリカザリガニとウシガエルを載せているが、宇陀川は印象としても生物調査確認種リストを見ても良い生物種が棲む川なので、重要種等良い種を載せて、外来種は別の項に載せるとか、各河川一種ずつ載せるとか、載せる基準を三川そろえた方が誤解されなくてよい。  
⇒各河川の性格がわかるように良い種を載せ、外来種はまとめて載せること等を検討したい。
- ・整備方針の縦断計画、横断計画のところで「平行移動」という言葉がよく出てくるがどういう意味か。もっとわかりやすく表現してもらいたい。
- ・一般の方が読んだ時、よくわからない、イメージがつかみにくい表現は取り除いた方がよい。例えば、「みお筋

や縦横断方向の地形を元の形状に近い形で整備する」のように表現すれば、元の地形が残ることが理解できる。

- ・専門用語としてどうしても使わなければならない用語があれば、後で注釈をつけるのもひとつの方法である。  
⇒「平行移動」という表現を用いたことで余計にわかりにくくなってしまったので修正したい。
- ・資料3のP.4-9 山田川のバイパス区間について、流量配分図には町並川のようなバイパスするという形のもので示されていない。旧川には普段の水は流れるので、その存在を全て取り払うというものではないことを表せないか。  
⇒洪水を流すのはバイパス河川のみであり、旧川はその流域の排水機能だけで、洪水という意味では流量を持たせないため、流量配分図ではバイパス区間の旗揚げだけを行っている。なお、位置図にもバイパス区間がどこかわかるように表示したい。
- ・「護岸は自然石を用いて」ということを書いているが、宇陀川や町並川では現在の護岸が川の景観に馴染んでいるので、整備時には護岸の色の出し方や石の使い方等に配慮してほしい。ピカピカではない方がよい。
- ・資料3のP.5-6とP.5-7 山田川の縦断図の計画河床がガタガタしている部分は堰か何かがあるのか。計画河床は深だまりの形になっているのに水面形はスムーズになるのか。  
⇒山田川は普段の水が少ないので、「落差工下流部に深だまりを設け洪水時における水生生物の生息場所の確保に努める」としており、その深だまりをイメージしている。洪水時の水位計算では止水域となるためスムーズな水面形になっている。深だまりを表現せず洪水時の計画縦断形の河床を示した方がわかりやすいので修正したい。
- ・委員会も回を重ね、意見も出尽くしたと思うので、今回の指摘に対する修正を行った上で、住民の方々に説明し意見をいただく形で進めることとする。

### 5. 3 今後の進め方について

- ・原案の公表では、分厚い資料を見せる以外に概要版を用意するというようなことも考えているのか。概要版は委員にも見せてもらえるのか。  
⇒今までの委員会での説明資料から抜粋するような形で概要版を作成し説明することとしている。各委員にも配布したい。
- ・従前の懇談会では参加人数が相対的に少なかったケースが多いので、その背景分析を行うべきである。  
⇒広報についてはできるだけ皆様に伝わるように、今回はケーブルテレビの活用や自治会回覧も考えている。
- ・懇談会でありながら懇談というところまでいかなくて、膨大な資料のためにわからないまま帰ってしまう参加者が多いのではないかと。それをフォローできるようなものがあるのか。懇談会の結果は知ることはできるが中身が見えてこない。公聴会に参加したきっかけや公開資料をどこまで見たかということなどが知りたいので参加者にアンケートをとってもらいたい。  
⇒アンケート調査を加えたい。

(以上)